



## 皇太子殿下ラオス訪問

6月29日から7月1日にかけて、皇太子殿下がラオスを公式訪問されました。この訪問は、皇太子殿下にとって、初めてのラオス訪問となりました。

訪問中、皇太子殿下は無償資金協力で建設されたビエンチャンの武道センターで、ラオス人選手による合気道、柔道の練習を視察されました。技を披露したラオス人選手たちはみな、シニア海外ボランティアの安江豊志さん（合気道）、熊井憲治さん（柔道）、近藤如巨さん（柔道）の教え子たちです。

また、皇太子殿下は武道センターのマネージメント・オフィサーである三宅正伸さんにも会われました。

さらに、皇太子殿下はルアンパバーンにあるルアンパバーン王宮博物館も訪問され、ここで20世紀初頭から1975年ごろまでのラオス王室の写真保存を手掛けている堀澤光栄シニア海外協力ボランティアにもお会いになりました。

その他にも、在留邦人の代表として、ラオ・ブラザ・ホテルにおいて、ボランティア、専門家、JICA事務所に声をかけていただき、激励していただきました。

## 青年海外協力隊員のトンシン首相表敬訪問

7月25日、青年海外協力隊員52名が首相府においてトンシン首相への表敬訪問を行いました（横田大使、戸川所長同席）。

この首相表敬は2002年にブンニャン現国家副主席が首相在任中に開始され、以来毎年恒例行事となっており、今回で11回目となります。横田大使、戸川所長のあいさつに続き、隊員を代表して梶山葉子隊員（22年度2次隊、幼児教育）が現在の隊員派遣の概要、自身の活動の様子とともに首相への謝辞を述べました。

トンシン首相はスピーチにおいて、2014年までの全17県へのJOCV配置を提言し、2020年までのラオスの後発開発途上国脱却に向けて、青年海外協力隊員の草の根レベルでの活動に期待する旨の発言がありました。

## 医療廃棄物焼却施設運転開始

JICA-ASEAN連携ラオスパイロットプロジェクトの環境管理コンポーネントの一環として、医療廃棄物処理設備が整備され、ルアンパバーン、ビエンチャンの順に医療廃棄物焼却炉の運転が開始されました。ラオスにおいては、保健省によって医療廃棄物の分別処理が推奨されていましたが、実際にはほとんどの病院で、何を以て感染症とみなすかなどの判断基準が明確になっておらず、医療廃棄物の分別が十分に行われていない状況があります。この状況を改善すべく、保健省が感染症廃棄物ガイドラインを作成する前提で、2つの医療廃棄物処理施設がラオスで初めて設置されました。

## 【体調管理にご注意を】

季節の変わり目です。体調を崩されている方も多くいらっしゃいますので、バランスのよい食事と質の高い睡眠、適度な運動を心がけ、健康な毎日をお過ごしください。



## おことわり

本ニュースレターはJICAラオス関係者を対象としたものであり、JICAラオスの活動内容及びニュースの共有を目的とし、約3ヶ月に1度を目処に発行していく予定です。ご意見・ご質問はこちらまでお願いします。

Yoneyama.Yoshiharu@jica.go.jp（米山）  
Takizawa.Masahiko@jica.go.jp（滝沢）

## 政策協議

9月13日にラオス計画投資省、日本大使館と今年度要望調査の総括にあたる政策協議を開催しました。日本側からは大使館・JICAラオス事務所及び外務省・財務省・経済産業省・JICA本部からの出張者、が出席し、対ラオス支援についての政策対話の他、来年度の要請について、ラオス側、日本側からの各案件の優先度などを協議し、ソムチット副大臣、在ラオス横田大使とその内容について署名を行いました。



## IMF/世銀

### DSA(債務持続性分析)

#### 赤信号から黄信号へ格上げ

2012年7月に実施されたIMF/世銀IV条協議調査団によると、ラオスのCountry Policy and Institutional Assessment (CPIA 国別政策・制度評価\*) の過去3年間の平均値が3.29へ上昇しました。これに伴い、ラオスは「High risk of debt stress (赤信号)」から「Moderate risk (黄信号)」の分類となり、「Medium Performer」へ格上げされ、Debt sustainability Analysis (DSA)上の対外債務に対する閾値も増加しました。好調な経済成長や厳格な債務管理政策実施(対外借入れを譲許的な条件に限定するなど)等により債務持続可能性に改善がみられたことが評価された結果と言えます。これにより、2013年7月から世銀グループはグラント(無償)のみの支援からグラントとローン(有償)を組み合わせた支援が可能となります。

\* 国別政策・制度評価：世銀グループが対象国の政策や制度環境を評価し点数化するもの

### 今後の予定

10月2日 ASEP (アジア・欧州議員会議)

10月31日 JICAラオス事務所休日

11月5、6日 ASEM(アジア欧州会合)

11月23日(予定) RTIM

※11月5、6日の前後は、政府関係機関の訪問日程調整、宿泊先確保等が困難になること、交通規制が予想されますのでご注意ください。

## ナム・グム第一発電所拡張計画の審査開始

2011年度に7年ぶりに再開されたラオス向け円借款事業(Pakbo-Saravan間115kv送電線)に引き続き、今年度の新規円借款事業として、9月17日から「ナムグム第一発電所拡張事業」の審査が開始されました。豊富な包蔵水力を有するラオスでは、周辺国に対する電力輸出が重要な外貨獲得源となっています。その一方で、近年の電力需要の急激な伸びに国内供給が追い付かず、2007年以降はタイからの輸入超過が続いています。国内での供給不足は発電量が低下する乾季、特に夜間のピーク時間帯で顕著になることから、早急に対策を講じる必要があります。本事業は既存のナムグム第一水力発電所の拡張と貯水池運用メカニズムの最適化を図ることにより、乾季ピーク時間帯における供給力の確保を目指しています。本事業は、既存ダムを利用して40Mwの発電ユニットを増設することから、短期間での供給力確保が可能となり、さらには環境面でも大きな影響は見込まれないため、迅速性や持続性の面で優位性があります。



## 「チャーがんじゅー」

### 学校・地域歯科保健プロジェクト開始

9月17日、草の根技術協力プロジェクトである、シサタナーク郡における「チャーがんじゅー(いつまでも健康)」学校・地域歯科保健プロジェクトのオープニングセレモニーが開催されました。このプロジェクトは、琉球大学とラオス・沖縄口唇口蓋裂患者支援センターと

連携し、児童の口腔衛生に取り組むものです。これまでも、2008年5月から2012年3月まで草の根技術協力「児童に対する歯磨き指導による口腔内清掃状態改善事業」でセタティラート病院を中心に周囲の学校歯科健診や予防教育などコミュニティに根差した活動を行ってきており、本プロジェクトはそれらの活動をモデルに地方への展開を目指すものです。地方における歯科医師の技術向上や学校での歯科検診の活性化を目標にラオスの保健医療分野のサービス向上を目標にしています。

### ラオス国水道公社事業管理能力向上プロジェクト開始

8月21日から下村政裕専門家(さいたま水道局から派遣)が着任して、技術協力プロジェクト「水道公社事業管理能力向上プロジェクト」が開始しました(木下雄介調整員9/23着任)。このプロジェクトは、首都ビエンチャン、ルアンプラバン県、カムアン県の水道公社を対象とし、水道公社の中長期的の視野に基づいた事業管理能力強化を図るものです。水需要や財務収支見通しに基づく専門計画を導入することにより、持続可能かつ安定的な水道専門運営が可能となるよう支援していきます。

### 平成24年度教師海外研修 ラオス視察を終えて

JICA中部 市民参加協力課 西尾治美

8月5日～8月15日の日程で、愛知県、静岡県、長野県の小、中、高、特別支援学校の教員8名が、ラオスを訪問しました。ビエンチャン、パクセ、サラワン各地のJICA事業やNGO活動、教育現場をはじめ、ワット・プーやタートルアン、市場などを訪れ、ラオスにおける国際協力活動や、歴史や文化、人々の暮らしの様子を体験を通して学ぶことができました。研修参加者からは、「JICAの国際協力事業はラオスの文化や暮らし自然を大切に人々に寄り添い、何が必要なかを考えて人を幸せにする発展を展開しようとしている点と、発展することのみに焦点を当てるのではなく、発展するまでのプロセスを大切にしている点がよいと思いました。」などの感想が得られました。ラオスから帰国した教員は現在、ラオスで得た体験や資料をもとに教材を作り、それぞれの学校にて授業での実践活動を行っています。



【パクセ小学校での模擬授業】

パクセ小学校で日本の遊びを紹介すると、子ども達は目をキラキラ輝かせて一緒に遊ぶことができました。言葉の壁・肌の色・国境…そんな差を一切感じ無いて人懐こく溶け込む子ども達から「世界は一つになれる!」そんな心強いメッセージをもらえました。



【一村一品プロジェクト視察】

ラオガム郡ホアイフン村にて、カトウ族が後帯機で織るシンやパービアンに感動し、実際に織り方を教えていただき貴重な体験ができました。バナナ繊維の鞆を購入できました。「ずっと大切に使います!」

写真提供：平成24年度教師海外研修参加者

## 丸亀うちわプロジェクト

### 開始

7月、草の根技術協力「ラオス ビエンチャン県バンビエン郡うちわ産業振興プログラム」が開始されました。このプロジェクトは、バンビエン郡農林研修センター周辺地域農民へ香川県のうちわ制作技術の移転を行い、将来的には農民自らの生産・販売を促進することにより、彼らの所得向上を図るものです。

バンビエン郡では、もともと住民たちがかご細工など竹工芸の技術を持っており、うちわの制作にも応用できるのではないかと可能性が期待されています。「香川らしい」うちわ制作と「バンビエン農民らしい」竹細工が見事に合致し、本プロジェクトの開始に至っています。

本プロジェクトでは、2013年の年明け頃の受注開始に向け、PR用うちわをビエンチャン国際空港内JICAアンテナショップ「グリーン・ラオ」やイベント等で配布し、幅広く知られるよう活動していく予定です。

### 電気自動車セミナー開催

1月から8か月間、電気自動車(EV)導入の可能性調査を実施しており、この度、その結果を総括したワークショップが開催されました(9/27@ICTC)。「ラオスでEV?」と不思議に思う方もおられるかもしれませんが、しかし、調査結果の分析によると、水力発電の高いポテンシャルがありつつ石油を全量輸入に頼るラオスでは、経済面、環境



ビエンチャン市内を走行する電気バス

面、エネルギー安全保障面で、EV導入に大きなメリットがあることが確認されました。実は、小型電気バスが既にビエンチャン市内でも運行しています(中国供与)。EVや蓄電池は、日本企業が



強みを持つ分野でもあります。事務所では、ラオス政府と協力して、本格導入に向けた実証モデル事業等を推進したいと考えています。